

2000年に始めたフライブルク大学主催のサマープログラム（現：夏大学）への派遣がこの夏でまる20回目を迎えた。わずか5名しかいなかった参加者も今では20名を超える規模に発展、20回の派遣で380名を超える薬大生がフライブルクでの短期留学を体験するという喜ばしい記録を残すことができた。今年（2019年）もドイツ語コースと英語コースの2コースに23名の2年次、3年次生が参加、語学学習だけでなくフライブルク大学医学部附属病院の院内薬局や市内の個人薬局の

見学、薬学部でのミニ講義、施設見学など得難いプログラムを体験した。今回の派遣団の中から3名の参加者に今回の夏大学の体験を綴ってもらった。我と思わぬ諸君は是非とも派遣20周年の来年にフライブルクを目指してほしい。

ドイツ語担当准教授
日本フライブルクアルムニ会会員
桑形 広司

■ 2年次生 岡崎 瑞紀（ドイツ語コース）

ドイツの薬剤師は患者との密な関わりを大事にしている。フライブルクで生活し始めて第一に感じたのは、薬局の数が多くということであった。しかし、日本のように病院の近くに薬局が併設されている所は少なく、ドイツでは「かかりつけ医」ならぬ「かかりつけ薬局」を決めている人が多いという話を聞いた。日本にもかかりつけ薬局の制度はあるが、ドイツではその制度がより浸透し、薬剤師がより市民に寄り添っている感じられた。

また、フライブルク大学薬学部の研究室見学においては三つの研究室を見学してもらい色々な話を聞かせて頂いた。その中で私が一番印象に残っている事は薬学教育における大学のシステムの違いである。本学では将来的にどのような職業に就くにしても全学生が六年間共に学ぶことになっている。しかし、フライブルク大学においては薬局で働くのと企業で働くのとでは異なるコースが設けられている。企業コースは十年前から始められた制度にも関わら

ず、今では多くの学部生が選択していると聞き、自らの将来について明確な考えを持った上で大学に入る学生が多いのだと感じた。

現在、日本では薬剤師の在り方が大きく変化しつつある。私が薬剤師になる頃には今まで以上により多くの事をしないといけないかもしれない。その中で重要な事は、患者のことをより詳しく知ることであると思う。そのためには地域に密に関わるフライブルクの薬局の在り方は是非とも参考にすべきだと感じた。今回のサマープログラムに参加したことで本当に沢山のことを学び、それに伴い、日本に居る時には持てなかった視点から物事を見ることが出来た。この留学プログラムに参加する際に関わってくださった皆様に感謝すると同時にこの一ヶ月で学んだ事、感じた事を自分のこれからの学生生活に活かしていきたい。



大学薬学部の研究室見学での集合写真（筆者：前列右から6番目）

■ 2年次生 武田 里佳子（ドイツ語コース）

フライブルク大学に留学してたくさんのことを学ぶ機会を得た。

まず、普段の生活や授業では英語があまりできない海外のクラスメイトが、授業に積極的にいき友達をたくさん作る姿を見て「相手のことに興味を持ち、コミュニケーションをとろうとする大切さ」や、拙い英語や中国語でも真剣に話を聞いてくれるクラスメイトやフラットメイトを持つことで得られた「母国語以外でも話をする勇氣」など…。クラスや寮でできた友達からたくさんのことを学ばせてもらった。

休日はドイツ国内や隣国のフランスに旅行に行ったのだが、その際も日本ではなかなか経験できない貴重な体験をした。ドイツの電車の乗り方が日本とは全く異なっていてその違いに戸惑ったり、バス停が思っていた位置よりもかなり遠くにあって帰りのバスに間に合わなかったり、中央駅の地下のスーパーでみんなで買い物をしていると、屈強な警察官3人が現れて出身国を執拗に尋ねられたりとハプニングが多かった。しかし、それらのハプニングが実は人のやさしさに触れる機会を与えてくれたり、さら

には、問題に遭遇したときの切り抜け方を学んだりするいい機会となった。ハプニングは、現地の人に助けを借りなくてはならない瞬間をもたらしてくれたので、英語を話すいい機会となった。

また、留学中、台湾や香港のクラスメイトと仲良くなり中国語を話せるようになりたいと思い、来年台湾に留学しようと考え、勉強している。私は第2外国語でドイツ語を選択していなかったが、様々な経験や新たな目標を与えてくれたドイツ留学プログラムに、勇氣を出して参加してよかったと思う。



クラスの修了証書授与式にて撮影
(筆者：後列右から2番目)

■ 2年次生 藤井 菜緒（英語コース）

私はフライブルク大学サマープログラムの英語コースに参加し、約1ヶ月英語を学んだ。クラスメイトには日本人だけでなく中国、韓国、コロンビアなどから来た人もいたり、また年代も私と同じような大学生の他にも様々な人がいて、このような普段では関わることのない人と毎日共に授業を受けたり話したりすることは、私にとってとても刺激的で楽しい時間だった。授業の内容は文法やライティング、また授業の最後に1人ずつ行うプレゼンに向けての準備が中心だったが、日本の授業のように先生の話聞いて自分で作業を行うのではなく、先生の問いかけに答える形式や、ペアワークやグループワークを行うことが多かった。自分の考えをぱっと英語で表現するのはそんなに簡単なことではないし、うまく伝えられないときもあるが、積極的に発言することで英語力の向上につながったと思うし、クラスメイトとの距離を縮めることもできた。プレゼンでは折り紙を紹介し、鶴の作り方を教えたときに楽しんでもらえたことがとても嬉しかった。

また語学の他に、生活などの面でもこの留学は自分を成長させてくれたと思う。スーパーでの買い物や電車の乗り方など、日本とは異なることも多かったが、週末には自分たちで遠出の計画をたてて観光地へ出かけ、充実した時間を過ごすことができた。この留学でのさまざまな経験とそこで得たものを忘れずに、これからの大学での学びや将来に活かしていきたい。



クラスメイトと先生と一緒に撮った写真
(筆者：中段右から2番目)